

第2回研究会

「龍谷の森」に関する報告

龍谷大学先端理工学部・実験講師 里山学研究センター・副センター長

林 珠乃

龍谷大学政策学部・准教授 里山学研究センター・研究員

谷垣 岳人

森のある大学 龍谷大学里山学研究センターの第2回研究会は、2020年8月25日（火）に行った。そこでは、本研究センターの研究員の共通するフィールドである「龍谷の森」に関して、主に、歴史的変遷、環境教育、市民活動の視点から報告が行われた。報告者及び題目は、以下の通りである。

第1報告：「龍谷の森」における教育（瀬田）と市民活動

林 珠乃研究員（龍谷大学先端理工学部・実験講師）

第2報告：「龍谷の森」の変遷と環境教育（深草）

谷垣岳人研究員（龍谷大学政策学部・准教授）

I. 第2回研究会の位置づけ

「龍谷の森」とは、龍谷大学瀬田学舎に隣接する水平面積38haの里山林のことである。本学が1994年にこの土地を購入して以来、ここでは、市民向け講座を展開する龍谷エクステンションセンター（REC）による自然観察会を皮切りに、学生や教員のフィールドワークや研究、小学生を対象にした龍谷ジュニアキャンパス、総合学習、子ども理科実験・工作教室等といった様々な里山利用がなされている。また、2003年に龍谷大学の教職員や市民によって「龍谷の森」里山保全の会が結成され、同会が中心となって林道整備や倒木処理、腐葉土作り等の本格的な保全活動が行われている。

第2回研究会は、こうした「龍谷の森」における様々な環境教育活動の中心を担い、また、「龍谷の森」での生態物調査を行っている林研究員と谷垣研究員が瀬田学舎と深草学舎それぞれの教員の立場から「龍谷の森」での市民や学生に対する様々な環境教育活動の内容を報告し、研究員の間で「龍谷の森」に関する情報（「龍谷の森」とは何か、「龍谷の森」でこれまでに何を行ってきたのか）を共有するとともに、今後の「龍谷の森」の利活用についての議論を深めるというものであった。

II. 報告内容

第1報告として、林研究員は、先ず、瀬田学舎に属する学生と「龍谷の森」との関わり

(フィールドワーク、卒業研究)、オープンキャンパスにおける「里山ツアー」や夏休みにおける子ども理科・実験工作教室の内容等を説明し、「龍谷の森」が学生や市民にとって貴重な場であることを示した。林研究員は、次に、「龍谷の森」里山保全の会の活動内容に触れ、近年では保全の会以外にも参加を呼び掛けて実際に（CSR活動として）外部企業や大学内のサークルが参画していることを述べた。

第2報告として、谷垣研究員は、まず、「龍谷の森」の変遷について、この森がどのような経緯を辿って今に至るのかを説明し、その中で様々な利活用や保全の活動が行われていることを紹介した。谷垣研究員は、次に、「龍谷の森」における生態物調査や植物調査の内容を説明し、多様な生態系や植生があることを述べた。谷垣研究員は、続けて、深草学舎に属する学生と「龍谷の森」との関わり（例えば、「里山学」、「生態学のすすめ」等といった講義）や学生以外の里山利用の広がり的事例を挙げた上で、「龍谷の森」は、「里山の生物多様性」の場としてだけでなく、これら「龍谷の森」における環境教育を通じた「人と自然との関係性」も学ぶ場でもあり、「地域の多様性（生物・文化）を発見し多世代間の縁を結ぶ学の間」であることを強調した。

いずれの報告も、本研究センターの根幹に関わる内容であり、また、実践的な立場から「龍谷の森」の歩みを論説したものであった。

両報告者に対する質疑応答では、子どもの福祉（森や自然と子どもや保育教育との関係）、「龍谷の森」全体の明確な位置づけ、里山を通じた学生間の交流等、様々な観点から今後の「龍谷の森」の利活用に関する議論が行われた。

〈報告者〉里山学研究センター・リサーチアシスタント

眞田 章午